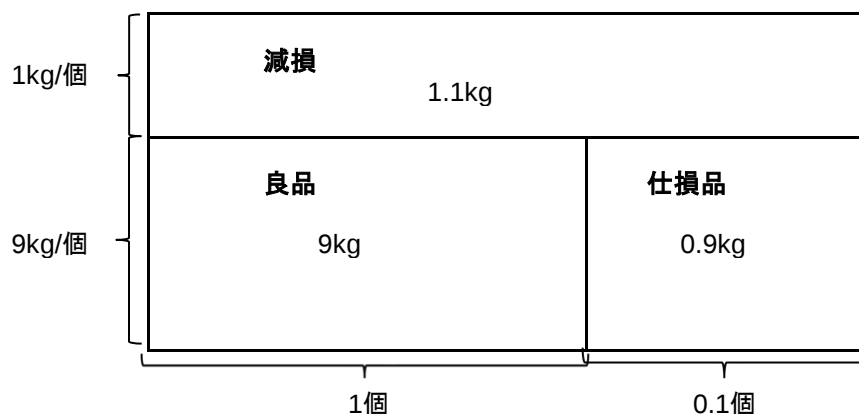


直接材料費の仕損減損分析

テキストP195の補足

- ・資料1.(2)と(3)から、次のことが読み取れる。
 - ・製品（良品＋仕損品）を1個作るために、材料が10kg必要。 →次図の縦軸
 - ・良品を1個作るために、仕損品が0.1個必要。 →次図の横軸

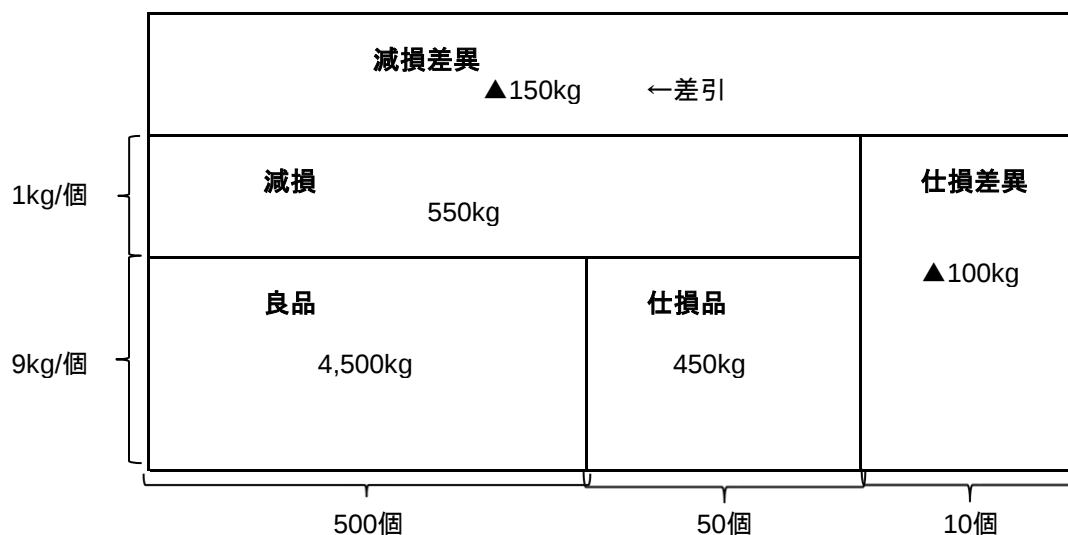
- ・これを図示すると、次のようになる。



つまり、

良品1個（正味9kg）を作るために、標準的に必要な材料は11kg。

- ・上図をふまえて、本設例に当てはめると、次のようになる。



仕損差異と減損差異が上図のように切り分けられる理由については、次のように理解すればよい。

- ・仕損品を作るためにも、減損は発生している。
- ↓
- ・余分に発生した仕損品（10個）を作るためにも、減損は発生している。
- ↓
- ・減損差異は、500個＋50個＋10個まで含んだ面積となる。

（逆に）

- ・「減損を作るためにも、仕損は発生している。」とはならない。

★[研究7-10] 仕損品に評価額がある場合 (P208~209)

◎第2法

1. 標準原価カード

正常仕損費 $2,850円 \times 2\% \dots\dots\dots 57円$ の意味

正常仕損率2%

⇒ 良品を100個作ると、仕損品が2個できる。

⇒ 良品100個で、102個分の製造原価を負担する。

⇒ 102個分の総コストは、

$$3,000円 \times 102個 - 150円 \times 2個 = 305,700円$$

⇒ 1個当たりの原価標準は、

$$305,700円 \div 100個 = 3,057円$$

★第1法でも、第2法でも、1個当たり総標準製造原価は同じになるため、第1法的に考えると理解しやすい！

★[研究7-11] 正常仕損費を仕掛品に負担させる場合 (P211~215)

◎第1法

1. 標準原価カード

1個当たり総標準製造原価 $\dots\dots\dots 3,050円$ の意味

正常仕損率2%

⇒ 良品を100個作ると、仕損品が2個できる。

⇒ 良品100個で、102個分の製造原価を負担する。

⇒ 102個分の総コストは、

$$\text{材料費} \quad 500円 \times 4kg \times 102個$$

$$\text{変加費} \quad 200円 \times 2h \times 100個 + 200円 \times \frac{2h \times 50\%}{2h \times 50\%} \times 2個$$

$$\text{固加費} \quad 300円 \times 2h \times 100個 + 300円 \times \frac{2h \times 50\%}{2h \times 50\%} \times 2個$$

⇒ 1個当たりの原価標準は、

$$\text{材料費} \quad 500円 \times 4.08kg$$

$$\text{変加費} \quad 200円 \times 2.02h$$

$$\text{固加費} \quad 300円 \times 2.02h$$

} P212の標準原価カード

仕損品1個作るのに、何時間かかっているか？

⇒ 50%点で仕損が発生。

つまり、1h加工点で仕損が発生。

◎第2法

1. 標準原価カード

正常仕損費 $2,500円 \times 2\% \dots\dots\dots 50円$ の意味

★第1法でも、第2法でも、1個当たり総標準製造原価は同じ(3,050円)になるため、第1法的に考えると理解しやすい！

(別解)

仕損品1個作るのにいくらかかっているか？

$$\text{材料費} \quad 500円 \times 4kg = 2,000円$$

$$\text{変加費} \quad 200円 \times 2h \times 50\% = 200円$$

$$\text{固加費} \quad 300円 \times 2h \times 50\% = 300円$$

} 2,500円

例題集P138 【研究例題7-4-1】は、各自必ず解くこと！